

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和4年6月分）

【製造業】

- 製造業は、4月の鉱工業生産指数は前月比▲3.7%低下。ヒアリングでは、半導体や部品の入荷遅延により、生産が進まない状況が続いているという声や、原材料高騰分の価格転嫁交渉が難航しており、仕入先と販売先と板挟みになっているとの声、メーカーの生産が計画の後ろ倒しにされており、生産が挽回された際の人員確保を懸念する声が聞かれた。

【地場産業】

- 地場産業は、4月の鉱工業生産指数は、窯業・土石及び繊維工業以外で上昇した。ヒアリングでは、原材料高騰分を価格転嫁したいが、取引先との力関係により、なかなか実現できないという声や、価格転嫁は売上に悪影響であるため、企業努力で販売価格を維持しているという声、円安の影響は輸出企業にはプラスだが国内向け企業にはマイナスであり、影響が二極化しているとの声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、5月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で23.7%増加した。ヒアリングでは、DXに向けてIT系のインフラ・システム投資を複数年計画を立てて実施しているとの声や、太陽光パネルを設置し、2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指すとの声が聞かれた。

【個人消費】

- 個人消費は、5月の販売額は、コンビニ以外で減少し、全体で▲1.4%減少した。ヒアリングでは、水道光熱費の上昇は経営に影響があり、節電を行っているとの声や、スタグフレーションが顕在化していく中で、国内消費環境が悪化していくことに強い懸念を感じているとの声も聞かれた。

【観光】

- 観光は、5月の観光客数、宿泊者数ともにコロナ前の令和元年同月比を3割程度減少している。宿泊施設からのヒアリングでは、県民割が隣接・地域ブロックまで拡大したため、宿泊客数が増えているという声がある一方で、先々の予約状況が悪く、予約の直近化が目立つとの声が聞かれた。

【資金繰り】

- 企業の資金繰りは、5月の制度融資実績は、件数、金額ともに13ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、今後手元資金が減少する事業者が増えてくると思われるが、返済が嵩むなどの理由により、新規借入には慎重な姿勢であるとの声が聞かれた一方で、以前よりも資金繰りに敏感になりつつあり、短期資金を長期資金に切り替える相談もあるとの声が聞かれた。

【雇用】

- 雇用面は、5月の有効求人倍率は1.62倍と9ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、プロフェッショナル人材事業を活用し、DX専門の人材を中途採用したとの声が聞かれた一方で、通常業務の人手は充足しているが、ECに対応できる人材が不足しているとの声や、現状人手不足ではないが、今後昨今の情勢が落ち着き、生産活動が正常化した際の影響が懸念されるとの声が聞かれた。

【景気動向】

- 4月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲0.4ポイントとなり、5月の中小企業の景況感と同▲5ポイントとなった。